

第二権の実子供の家
令和5年度 事業報告

令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが2類感染症から5類に変更された。保育園では、こども家庭庁や三鷹市からの連絡に従い、療養期間の短縮や園内の消毒方法などを変更した。

コロナ禍前の生活に戻り、保育園での活動がより豊かな生活に戻っていった。日常生活では食事の制限がなくなったり、ホールに異年齢で集えるようになったり活動の幅が広がった。行事などは、3年ぶりに大型バスを借りて5歳児親子遠足が実施できた。また、3・4歳児は、近隣公園での園外保育の際、公園内でお弁当を食べるなど、子どもにとっても保護者にとっても楽しい機会が増え、充実した一年間であった。地域に向けては、子育て支援事業や、市内中学生の職場体験、夏のボランティアの受け入れを積極的に行えた。

一方、コロナ禍でオンラインによる会議や研修会が日常化され、職員が園内にて会議や研修会を行えるようになり、移動の負担が軽減されたことは有意義であった。

重点目標

- I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる
- II 保護者との共育を意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す
- III 幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及びより専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る
- IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- V 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる

0歳～2歳児は、モンテッソーリ活動を積極的に行いながらも、室内と屋外の両方で体を使って遊び、自分でできることが増えることに喜びを感じていった。運動遊びに力を入れ、ホールや保育室で巧技台を使い、体をたくさん動かしていた。

3、4、5歳児は、縦割り混合クラスで過ごし、年長児が年下の子をお世話することで、思いやりや憧れの心を育むことができた。

C組は、年間を通じて就学前カリキュラムを活用し、5歳児独自の時間を設け、自分の名前をきれいに書く練習やひらがなの練習など、就学前の準備を行った。お別れパーティーは久しぶりに全クラスがホールで集い、プレゼントを手渡したり、歌やメロディーベルを披露したり楽しい時間を過ごすことができた。

II 保護者との共育を意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す

お便り等を活用し、保育園の活動の目的や成果を知らせ、保育に関する理解や興味を持っていただけるよう努力した。クラス懇談会は対面で行えるようになり、保育参観も行うことができた。保育参観の際は、給食の試食をしていただくことが可能となり、より保育園給食への興味を持っ

てもらえた。食育だよりにレシピを載せてほしいという要望も多く、応えるようにした。また、保育参観の日には個人面談も行い、お子さんに対する共通理解を図ったり、生活習慣の状況を確認し合うことができた。乳児クラスのトイレトレーニングは、日々の保育の中で園の状態と家庭での状況をすり合わせ、協力し合いながら進めるようにした。

Ⅲ 幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及びより専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る

次世代を担う保育士の育成として、子ども一人ひとりに今必要なことは何かを、保育者が状況に応じて瞬時に判断し、実行する保育者を目指していった。

幼児教育機関として、市内の各施設との連携も行った。特に子ども発達支援センターの巡回指導は全5回利用することができた。その他保健センターを活用するなど、課題のある子や家庭は専門機関に繋げるよう努めた。職員も課題がある子や家庭をどのタイミングでどこに繋ぐべきか、具体的な対応に自信を持つことができた。

Ⅳ 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。また、5月8日以降も大人のアルコール手指消毒を行うよう、玄関や各保育室には消毒液を常に置いていた。職員のマスク着用は、自身の判断に任せた。

新型コロナウイルス感染症に罹患する子は減ったが、春～夏にかけてはウィルス性胃腸炎や流行性角結膜炎、ヘルパンギーナなど、コロナ禍では流行しなかった病気が多くみられた。溶連菌感染症は年間を通じて罹患者がいた。

食物アレルギーについては、安全で安心な給食提供を行うため、全職員が基礎知識を持ち、日常的なコミュニケーションの徹底を図り、年間を通して誤食などの事故予防に努めた。

Ⅴ 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

一時預かりのニーズは高く、年間でのべ1,000人を超える利用があった。0、1、2歳の登録者が多く、小さいお子さんの利用が多かった。

地域子育て家庭に対しては、保育所体験を開催し、マット遊びや砂場で遊ぶ機会を作った。在園生とも関わることができた。

園と保護者の関係については、子どもを共に育てる者として、基本的に担任が信頼関係を築いていく努力をした。気になるお子さんやご家庭に関しては、園長や主任も面談に入るようにし、悩みや苦勞などに寄り添うよう配慮した。

保護者によって運営されている「どんぐりコミュニティー」においては、行事への参加や保護者同士の結びつきが強くなるような活動をしてくれた。

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員 120名

(2) 年齢別 ① 0歳児 9名 ② 1歳児 17名 ③ 2歳児 22名
④ 3歳児 24名 ⑤ 4歳児 24名 ⑥ 5歳児 24名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数※	保育士
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名
すみれ	1歳児	17名	17名	4名
つくし	2歳児	22名	22名	4名
もも	3歳児	8名	8名	2名
	4歳児	8名	7名	
	5歳児	8名	8名	
さくら	3歳児	8名	8名	2名
	4歳児	8名	8名	
	5歳児	8名	7名	
あんず	3歳児	8名	8名	3名
	4歳児	8名	6名	
	5歳児	8名	6名	
合計		120名	114名	18名
一時預かり いちご	満1歳～5歳	6名		2名

職員数	
園長	1名
主任	2名
保育士	20名
看護師	1名
栄養士	1名
調理員	2名
非常勤職員	21名
嘱託医	1名
49名	

※令和6年3月31日現在